

(第1回)

中
2025

国

語

始める前に左の注意事項を読みなさい。

- 始めの合図があるまで開いてはいけません。
- 問題は全部で21ページあります。
- 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 始まるの合図で、解答用紙に受験番号、氏名を書きなさい。
- 質問のあるときは静かに手をあげ先生の指示を待ちなさい。
- 終わりの合図があったら、ただちに筆記用具を置きなさい。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

だれともわかり合えないさみしさ

親ばかりでなく、同年代の友だちでさえわかり合えない。考え方が違う。感受性が違う。価値観が違う。だから、求めるものが違うし、大切に思うことが違う。こだわるところが違う。

周囲を見回しても、自分と違う雰囲気かんいの友だちばかり。ちよつとしたやりとりの中から、さまざまな違いが感じられる。

そんな切り離はなされた人間と人間を結びつけてくれるのが言葉だ。自分の思いを少しでもわかってもらいたいと思うとき、僕ぼくたちは、わかってもらえそうな相手に自分の思っていることを語る。相手のことをもつとわかりたいと思うとき、僕たちは、その人の語りを引き出そうとする。

言葉というのは、切り離された心と心の橋渡わたしをする機能をもつ道具なのだ。この世に言葉があるのは、だれもが切り離された存在だからだ。

ゆえに、さみしさに押し潰つぶされそうなときは、だれかに語りたくなる。でも、考え方も感受性も人それぞれであるため、いくら語り合ってもなかなかわかり合えない。それがまたさみしさを募つらせる。

結局、人間は自分で自分を支えていくしかないのだということに行き着く。そんなときに存在意義を発揮するのが、もう一人の自分だ。

もう一人の自分との対話は、しばしば詩や短歌、あるいは小説や随筆ずいひつなど文芸の形を取る。それが読者の心に響くのも、だれもが自己の内面をめぐる葛藤かつとうを経験しているからだろう。

萩原朔太郎はぎわら したろうの「さびしい人格」には、痛いほどの孤独感こどくが漂たなっている。

「さびしい人格が私の友を呼ぶ、

わが見知らぬ友よ、早くきたれ、

②ここいすの古い椅子こしに腰をかけて、二人でしづかに話してゐよう、

なにも悲しむことなく、きみと私でしづかな幸福な日をくらさう、
みんすい

遠い公園のしづかな噴水の音をきいて居よう、

(中略)

よにもさびしい私の人格が、

おほおきな声で見知らぬ友をよんで居る、

わたしの③卑屈ひくつな不思議な人格が、

鵜からすのやうなみすばらしい様子をして、

④人気ふゆがのない冬枯れの椅子の片隅かたすみにふるへて居る。」「萩原朔太郎」〈ちくま日本文学全集〉、筑摩書房

もつとも文芸作品を通して自分との対話するのはごく一部の人たちだろう。より一般的いっぽんには、日記をつけるといった形を取る。

すでに指摘しできしたように、日記というのは、もう一人の自分との対話の場である。日記こそが唯一ゆい自分のホンネを打ち明けられる場だという人もいる。それは、いかにもさみしいことなのか、(A) 救いなのか。いずれにしても、もう一人の自分は、他人ではなく自分の一部なのだから、けっしてわかり合えない相手ではない。

青年期に日記をつける者が多いのには、そうした事情があるのだ。今は、日記をつけるときのように自分との対話をしながら、ネット上でブログを書く人もいる。

日記をつけたりブログを書いたりしない人も、心の中では、しよっちゅう⑤自分との対話をしているはずである。

僕は、中学生の頃、学校に行くとき自然に⑥道化を演じてしまうようなところがあつて、朝は「今日は、絶対にまじめに過ぐすぞ」と心に誓つて登校するのだが、例によつて周囲を笑わせたり、悪ふざけをして先生から叱られたりして、帰り道、友だちと別れて一人になると、「またやらかしちゃった」「なんでこんなつちやうんだ」などと（１）に陥りながら、「明日こそは、まじめに過ぐさないと」などと、自分との対話をしていたのを覚えてる。

だれにも言えない心の中の葛藤をめぐつて、ああだこうだと思ふ存分やりとりできる相手は、もう一人の自分しかない。

孤独だからこそ自意識を麻痺させることも

自己意識の高まる青年期は、このように自己との対話が頻繁に行われるようになる時期と言える。でも、ずっと自分と向き合っているのもきつい。自分の未熟さ、自分の不安定さ、自己嫌悪、逃れようのない人間存在の個性、孤独感……。そういったものと絶えず向き合っていたら疲れてしまう。心のエネルギーが消耗する。

そこで、気晴らしに走るようになる。

音楽に酔う。小説の世界に逃避する。とくに見たいものがないのにテレビをつけ、バラエティ番組などを意味もなく見続ける。友だちとしよつちゆう群れておしゃべりする。

こうした⑦気晴らしをしている間は、自意識から逃れることができる。人間は、自意識を麻痺させるための、ありとあらゆる道具を開発してきた。

絶えず人と一緒にいないとダメという人、一人でいられないという人もいるが、それは自分と直面するのを避

けるためのひとつの戦略と言ってよいだろう。

最近では、本を読む若者が少なくなっているが、その代わりにインターネットの世界に逃避する人が非常に多い。

何もしないでいると、つい自分と向き合ってしまう。そこで、暇さえあればスマートフォンをいじり、検索をしたり、SNSをしたり、ゲームをしたり、YouTubeで面白そうな動画を見たりして、自意識が活性化する隙を与えないようにしている。

絶えずだれかと会っていないと落ち着かない人も、不必要にSNSでやりとりしている人も、用もないのに癖のようにインターネットで検索している人も、本人ははつきりと意識していないかもしれないが、自意識を麻痺させようとしているのだ。

そうでもしないとやっていられない。平常心を保てない。自分と向き合うのは、それほど重たいことなのだ。大人だってそうだ。アルコールに溺れるのも、社交に⑧うつつを抜かすのも、仕事中毒になるのも、スマートフォンを片時も手放せないのも、自意識を麻痺させるため、自分の内面から目を逸らすためと言ってよい。

問柄の文化の住人だからこそ切実な孤独感

自立ということに関連して、個の確立というようなことも言われる。でも、親からの自立という青年期の課題をはるか昔に達成してしまった僕でさえ、個として閉じた形で自分が確立されている気がしない。

⑨ 個の確立などというのは、日本人にとつては無縁のことなのではないだろうか。

子ども時代のように親の管理下に置かれて動くのではなく、青年期になったら自分で考え、自分で判断して動く。それはわかる。しかし、それでも他人の影響は受け続ける。けっして僕たちは、他者に対して閉じられた個

として生きているわけではない。

(B)、僕が親の管理下から離れ、親から自立して動き始めた頃、何が僕の行動原理になっていたのだろうか。思い返してみると、語り合う友だちや書物を通して出会った作家・思想家・科学者など、僕が共感する人や傾倒する人の価値観を基準に動いていたように思う。親とは違うものの見方や考え方を主張するとき、親以外のだれかが僕の中で動いていた。

結局、僕たちは、個別性を自覚して生きるとはいつても、個として他者から切り離されて生きているわけではない。さまざまな他者の影響を受けながら生きている。さまざまな他者との関係性を生きている。

相手があつて自分がいる。ゆえに、親からの自立というのは、自分で取捨選択しながら親以外の人たちの影響を強く受けるようになっていくことを指すのではないだろうか。

個を生きるのではなく、他者との関係性を生きる僕たち日本人には、他者から独立した自分などというものはない。

(C)僕は、欧米の文化を「自己中心の文化」、日本の文化を「間柄の文化」というように特徴づけている。「自己中心の文化」とは、自分の言いたいことを何でも主張すればよい、^⑩ある事柄を持ち出すかどうか、ある行動を取るかどうかは、自分の意見や立場を基準に判断すべき、とする文化のことである。何ごととも自分自身の考えや立場に従って判断することになる。

欧米の文化は、まさに「自己中心の文化」と言える。そのような文化のもとで自己形成してきた欧米人は、何ごとに関しても他者に影響されず自分を基準に判断し、個として独立しており、他者から切り離されている。

そのような文化においては、他者の影響を受けることは、個が確立していないという意味で未熟とみなされる。

一方、「間柄の文化」とは、一方的な自己主張で人を困らせたり嫌な思いにさせたりしてはいけない、ある事柄

を持ち出すかどうか、ある行動を取るかどうかは、相手の気持ちや立場に配慮^{はいりょ}して判断すべき、とする文化のことである。何ごとも相手の気持ちや立場に配慮しながら判断することになる。

日本の文化は、まさに「間柄の文化」と言える。そのような文化のもとで自己形成してきた日本人は、何ごとに関しても自分だけを基準とするのではなく他者の気持ちや立場に配慮して判断するのであり、個として閉じておらず、他者に対して開かれている。ゆえに、たえず相手の期待が気になり、できるだけそれに応えようとするのである。

そのような文化においては、他者に配慮できないことは、自分勝手という意味で未熟とみなされる。

「自己中心の文化」においては「他者の影響を受ける」として否定的にみられることを、「間柄の文化」においては「他者に配慮できる」というように肯定的に評価するのである。

そのような「間柄の文化」においては、親からの自立を果たすためには、親との間柄に代わる重要な間柄が必要となる。関係性を生きる僕たちとしては、何らかの関係性がないと困る。自分を動かす行動原理がなくなってしまう。だからこそ、青年期には、お互^{たが}いの内面を共有できるような親友を強く求めるのである。

（榎本博明 『さみしさの力』より）

問一

——部①「切り離はなされた人間と人間」とありますが、なぜ「人間と人間」は「切り離された」存在なのか、もつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 外見だけでなく、雰囲気や感じ方が違うため、お互いに感じる違和感をぬぐうことはできないから。

イ 価値観や感じ方などが異なるため、同じ気持ちになることはできず、理解し合えないから。

ウ 出会うべくして出会った人間同士であったとしても、生まれ持った性格が異なる存在であるから。

エ 親であっても、この世に生を受けたときから、別々の個体として生きていかなければならないから。

問二

——部②「この古い椅子いすに腰こしをかけて、二人でしづかに話してゐよう、／ ……／ 遠い公園のしづかな噴水ふんすいの音をきいて居よう」という表現から、「わたし」はどのような生活を望んでいると考えられますか、もつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア たくさんの友だちに囲まれて、楽しい日常が繰り返される生活を望んでいる。

イ 世の中とは交わりを持たずに、自分を理解してくれる一人とだけ過ごせる生活を望んでいる。

ウ 自分を受け止めてくれる人と、静かで心穏やかに過ごせる生活を望んでいる。

エ 社会のかたすみで、だれにも知られずに、自分の愛する人と静かに過ごす生活を望んでいる。

問三 — 部③「卑屈ひくな不思議な人格」という表現から、「わたし」は自分のことをどのようにとらえていると考

えられますか、もつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分を理解してくれる人がいない中で、自らを見下して、自分を奇妙きみょうな存在としてとらえている。

イ 自分を受け止めてくれる人が見つからず、生きること絶望し、自分を特別な存在だととらえている。

ウ 自分の気持ちに共感してくれる人がいないとやけになる自分を、神秘的な存在だととらえている。

エ 自分が世の中から切り取られたような感覚にとらわれ、存在価値のない存在だととらえている。

問四 — 部④「人気」の読みをひらがなで書きなさい。

問五 (A)・(B)・(C) に当てはまる言葉としてもつともふさわしいものを次から選び、それぞれ

記号で答えなさい。なお、同じ記号を複数回使用することはできません。

ア しかし イ あるいは ウ 次に エ 一方 オ そこで カ そして キ では

問六 — 部⑤「自分との対話をしている」とありますが、何のために「自分との対話」をするのですか、もつ

ともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 理解してもらいたい人に理解されないという不満を解消するため。

イ 自分にも理解できない自分のホッネを、改めて確認するため。

ウ だれが理解してくれるかわからない気持ちを再確認するため。

エ だれにも理解されない自分の心の中にある気持ちを確認するため。

問七

――部⑥「道化を演じて」・⑧「うつつを抜かす」の意味としてもつともふさわしいものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

⑥ 道化を演じて ……

ア 面白おかしく、だれかを笑いものにして

イ 何かに一生懸命になろうとする心を押し殺して

ウ おどけた仕草や台詞で人を笑わせる役を務めて

エ その道の達人になろうと必死になって努力する振りをして

⑧ うつつを抜かす ……

ア あることに夢中になり、心をうばわれる

イ ありえない出来事に、夢か現実か分からなくなる

ウ 夢を見ているような気分だったのに、急に現実にもどされる

エ ひっきりなしに予定を入れ、心に余裕がなくなる

問八

(1) に当てはまる言葉としてもつともふさわしい言葉を文中より四字でぬき出しなさい。

問九 ――部⑦「気晴らしをしている間は、自意識から逃れることができる」という表現について、次の問いに答えなさい。

1 「自意識」とはここでは何を表していますか、もつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 平常心 イ 心のエネルギー ウ 心の中の葛藤 エ もう一人の自分

2 「気晴らし」は、何のために行うのかを説明した次の文に当てはまる言葉の組み合わせとしてもつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

(X) (Y) () ため。

ア X	あらゆる道具を開発して自意識を麻痺 まひ させるように	Y	自分自身と向き合う
イ X	SNSをしたり、ゲームをしたりするなど	Y	自意識を活性化させる
ウ X	インターネットによって自意識を活性化させるように	Y	ブログを書いたりする
エ X	自意識が活性化する隙 すき を与 あた えないように	Y	自意識を麻痺させる

問十 ――部⑨「個の確立」とありますが、「個」が「確立する」とはどういうことですか、もつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の考えよりも、親や他者の考えや価値観を重視して成長すること。
イ 自分の考えや価値観を作り上げるために、他者の考えや価値観を参考にすること。
ウ 自分の考えを、他者の考えと比較ひかくして、共通点を見つけて発言すること。
エ 自分の考えや価値観に基づいて判断し、行動したり発言したりすること。

問十一 ――部⑩「ある事柄を持ち出すかどうか、ある行動を取るかどうかは、自分の意見や立場を基準に判断すべき」とありますが、筆者は、「自分が行動する際の基準となるもの」を何と呼んでいますか、文中より四字でぬき出しなさい。

問十二 次の文は、「間柄あいだがらの文化の住人だからこそ切実な孤独感こどく」を読み、「日本と欧米おうべいの文化」の違いちがについて、筆者の考えをもとに話し合った内容です。本文の内容とは違う発言をしている生徒は誰だれですか、記号で答えなさい。

先生 *筆者は、「欧米の文化」を「自己中心の文化」、「日本の文化」を「間柄の文化」と考えています。
なぜ、筆者はそうのように考えているのですか？

Aさん*日本は、他者との関係を大切にしており、自分の発言や行動は、他者の存在を意識して判断、決定するため、「間柄の文化」と呼んでいます。

Bさん*一方で、欧米は、他者に影響えんきやうされることを嫌い、自分の考えや価値観を基準にして、判断、行動するため、「自己中心の文化」と呼んでいます。

Cさん*確かに、日本では、「出る杭は打たれる」というように、自己主張をすることがはばかれ、自分の意見とは違っても大多数の考えに同調することが美德とされています。

Dさん*さらに日本では「個」を他者に対して開かれた存在と考え、相手の期待に応えられるよう、相手に配慮はいりよする側面があると思います。

Eさん*確かに、欧米では、「個」が自立しており、他者の考えに寄り添そうよりも、自分の考えや価値観を優先させて行動する側面があるように感じます。

二

次にあげたA・Bは、「鳥」を題材として用いている短歌や詩です。
これらを読んで、後の問いに答えなさい。

A

白鳥は哀しからずや空の青海のあをにも染まずただよふ

(若山牧水)

B

小鳥に声をかけてみた

①

小鳥は不思議そうに首をかしげた。

わからないから

わからないと

素直にかしげた

あれは

自然な、首のひねり

てらわなない美しい疑問符のかたち。

時に

風の如く

耳もとで鳴る

意味不明な訪れに

私もまた

② 素直にかしぐ、小鳥の首でありたい。

(吉野弘「素直な疑問符」による)

【語注】 てらわな い …… 氣どつて見せない。

問一 Aの短歌に用いられている表現上の特徴は何ですか。その説明としてふさわしいものを、次から二つ選**び**、記号で答えなさい。

ア 実際の音や声を言葉でまねて表現することで、短歌に迫力や緊張感を生み出している。
イ 現実にはない大げさな表現を使うことで、実際の体験ではないことが強調されている。
ウ 同じ意味の言葉をくり返し使うことで、短歌に独特のリズムを生み語調を整えている。
エ 物の様子を音声にたとえて表現することで、短歌に生き生きとした動きを与えている。
オ 人以外のものを人にたとえて表現することで、作者が見ている情景を印象づけている。

問二 — 部①「小鳥は不思議そうに首をかしげた」とありますが、こうした「小鳥」の様子を、作者はどのよう**に**表現していますか。Bの詩の中から、十五字でぬき出して答えなさい。

問三

——部②「素直にかしぐ、小鳥の首でありたい」には、作者のどのような思いが込められていますか。その説明としてもつともふさわしいものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア 周囲の意見に影響を受けたり、社会的な動きに流されたりせずに、自分が考えたことを信じていきたいという思い。

イ 自分の耳に入ってくる他人からの情報に対して、積極的に受けとめ、自分の考えに取り入れていききたいという思い。

ウ 自分が不得意であつたり、たしかな知識を持っていなかったりした時に、ごまかさずに正直でありたいという思い。

エ 人として成長しながら、いくつになっても、人から言われた言葉を素直に受けとめ、行動していききたいという思い。

問四

授業において、Aの短歌とBの詩を読んだ五人の生徒が、それぞれの特徴や表現について、感想を述べ合っています。これについて、問いに答えなさい。

ともや

Aの短歌は、「白鳥」が広い空と海のどちらにも染まらずに泳いでいる情景を、色の対比を取り入れながら鮮やかに表現しているね。「白鳥」と「空」や「海」も比べられていて、大きさの対比も見事に描かれているよ。

たくと

Aの短歌では、「白鳥」を、「はくちよう」ではなく、「しらとり」と読ませていることにも作者の意図を感じるよ。先生も授業で、はじめは「はくちよう」と読んでいたのを、作者が読み方を「しらとり」に変更したと言っていたので、「しらとり」と読ませることで、a んじゃないかな。

はるか

そうだね。それに対してBは、「小鳥」がかしぐかわいらしい動作が描写されているよ。「かしぐ」というのは、向きがカタムイたり、斜めになったりする動作のことだから、「小鳥」がお辞儀をしているような姿が想像されて、おもしろいね。

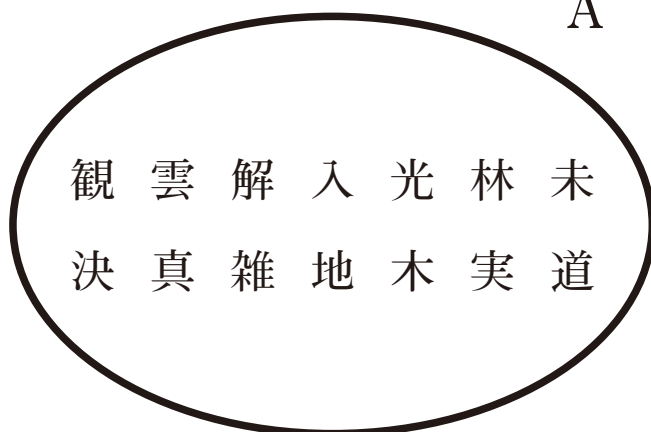
つかさ

そういえば、Bには、特徴的な比喩が使われているよね。Bでは「私」の耳に入ってくる様々な声などを「b」にたとえているね。

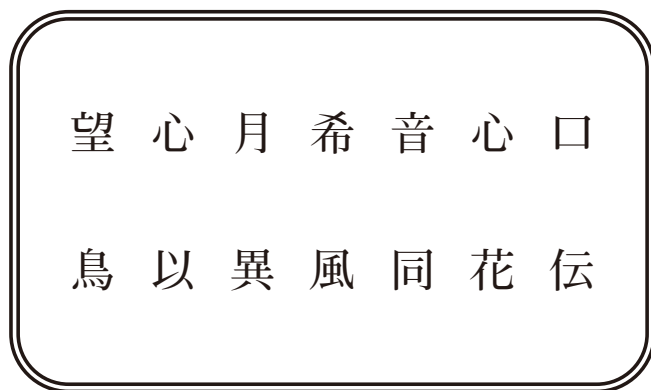
三

次のA・Bグループの漢字について、後の問いに答えなさい。

A



B



問一 Aグループの漢字を一回ずつ組み合わせて三字の熟語を作ると、二字残ります。

残った二字でできる熟語を答えなさい。

問二 Bグループの漢字を一回ずつ組み合わせて四字の熟語を作ると、二字残ります。

残った二字でできる熟語を答えなさい。

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

みなさんは、「えらい」という言葉を、どのような意味で使っていますか。実は、一般的な使われ方とは違った意味で、大阪を中心とした西日本ではこの言葉が使われています。

次の〔例文〕を見てください。〔例文〕①～③であげた「えらい」は、それぞれ異なった意味で使われています。たとえば、①の――部「えらい」は、「とても、ずいぶん」という意味で使われています。

「えらい」という身近な言葉にも、意外な使われ方があるんですね。みなさんはこれから、知っている言葉の新しい意味に出会ったり、未知の言葉に出会ったりするかもしれません。そうした時でも、どうか恐がらないでくださいな。その文そのものをよく読んで、前後の言葉を確認すれば、答えはきつと見えてくるでしょう。

〔例文〕

- ① 「宿題忘れていったら、えらい怒られてしまった……。」
- ② 「高熱が出てしまって、ほんとにえらいなあ。」
- ③ 「どないしたん？ 学校の中でえらいかつこして。」

問 本文の〔例文〕②・③の――部「えらい」は、どのような意味で使われていますか。後から選び、それぞれ

記号で答えなさい。(ただし、同じ記号は一度しか使えません。)

ア かしい、努力している

イ 規則正しい、順序通りの

ウ つらい、疲れる

エ 立派な、他より優れている

オ 常識はずれな、普通ではない

五

次のそれぞれの体験を、「ことわざ」で表現すると、どのようになりますか。もっともふさわしいものを、後の「ことわざ」の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。（ただし、同じ記号は一度しか使えません。）

- ① 同じクラスの友達は、普段はおとなしい性格であり目立たないが、合唱祭でピアノを弾かせたら、だれもかなう者はいない。
- ② 去年の夏休みも、かき氷をついつい食べ過ぎてお腹をこわしたのに、また今年も食べ過ぎてしまい、始業式を休んでしまった。
- ③ 体育館が涼しくなるように、エアコンを設置してもらった。しかし、広い体育館に一つしかないため、まるで涼しくならない。
- ④ 下校後に、サッカーのクラブチームで練習し、他の日には、水泳も習ってがんばっていたが、どちらもあまり上達しなかった。

「ことわざ」

- | | | | |
|---|-----------|---|---------------|
| ア | 急がば回れ | イ | 好きこそものの上手なれ |
| ウ | 百聞は一見にしかず | エ | 弱り目にたたり目 |
| オ | 焼け石に水 | カ | 二兔を追う者は一兔をも得ず |
| キ | 能ある鷹は爪を隠す | ク | 喉元過ぎれば熱さを忘れる |

六

— 部のカタカナを、それぞれ漢字に直して答えなさい。

- ① 夏に渡米して楽器をエンソウした。
- ② 将来はウチュウ飛行士になりたい。
- ③ ぶどうのシュウカク祭に参加する。
- ④ オンコウな人柄^{がら}の先生に教わった。
- ⑤ 学校までの道は美しい桜ナミキだ。

七

— 部の漢字の読みを、それぞれ答えなさい。

- ① 折り紙を細工し様々なものを作る。
- ② 東村山で和菓子屋を営むのが夢だ。
- ③ 汽笛が鳴って蒸気船が動き出した。
- ④ 合唱祭でおしみない賛辞を送った。
- ⑤ 山の頂に立って大きな声で叫んだ。

